

# 新春を迎えて



## 二松學舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成28年1月20日発行  
(第91号)

二松學舎大学父母会  
(本部・事務局)  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松學舎大学学生支援課

題字は  
故 観山貞廣常吉先生書



父母会長  
田中福男



新年明けましておめでとうござい  
ます。今年、皆様にとりまして良い年  
であります様にお祈り申し上げます。  
父母会も今期で二十三周年を迎える  
事が出来ましたのは、皆様のご協力の  
賜物と考えております。心から感謝申  
し上げます。  
父母会の事業計画の地区別懇談会開  
催も順調に実施させて頂きました。  
また、前年同様に無料喫茶室を開き  
創縁祭にも参加をさせて頂きました。  
父母会の活動の中で、父母会成長支  
援型「資格・能力取得育英」奨学金を  
支給を実施しております。  
この活動は、子供達が努力した結果  
として、資格取得者に対し資格内容に  
より支給額を定め申請者に対して支給  
するものです。目的としては、子供達  
の勉学環境を整える事としております。  
さて、国内外とも激動の年が続いて

おります。  
国内は、高齢化と少子化による海外活  
用を実施した事による弊害として、国  
内の技術者の減少と技術者のコスト  
高。海外では、シリア問題とISに関  
係するテロ問題高発。中国経済に対す  
る不安と環境汚染と世界的な温暖化よ  
る影響と考えられる気象変動。など厳  
しい環境となっております。  
偉人の言葉として、「悪い時が過ぎ  
れば、良い時は必ず来る。おしなべ  
て、事を成す人は、必ず時が来るを待  
つ。時を待つ心は、春を待つ桜の姿と  
いえよう。ただし、何もせずに待つ事  
は僥倖を待つに等しい。静かに春を待  
つ桜は、一瞬の休みもなく力を蓄えて  
いる。蓄えられて力がなければ時か来  
ても事を成成しないのであろう。」と  
いう松下幸之助の言葉があります。  
四年の大学生活がいろんな意味で力  
を蓄える期間であると考えます。  
父母会会員の皆様には、子供達に対  
して学生の間で数多く経験をして頂き  
たいと思います。  
その経験が、社会人となった時に力  
になる事は、間違いないと考えます。  
今期の父母会活動も終盤を迎えま  
す。  
私たち父母会役員は、子供達がより  
良い大学生活を過ごして貰う事が出来  
る様に大学とのパイプ役となり活動し  
ておりますので、今後致ともご支援と  
ご協力を頂けます様によりしくお願い  
申し上げます。

父母会員の皆様は謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また日頃よりお寄せ頂いております本学の教育研究活動への御理解とご支援に対し、心より御礼を申し上げます。

「寒松一色千年別なり」。

松の緑は、寒い冬でも毅然として輝き、その青さ、姿は千年も変わる事なく、みごとであります。創立139年目を迎える二松學舎が、長い歴史の上に歳月を重ね、風雪の苦難に耐え、その青さを保ち続けて行くためには、教職員が切磋琢磨し、本学のブランドを保ち、引き上げて行く必要があります。このために策定された「N:2020 Plan」に基づくアクションプランの不断の実行が、今年も求められるところであり、

さして、昨年9月に理事長として再任され、引き続き、学校法人二松學舎の舵取りを任されることになりました。これまでと同様、ご支援、ご協力の程宜しく願います。

皆さまご存じの通り、私学経営を巡る環境は、年を追って厳しさを増しております。すなわち、少子化の進展で毎年確実に18歳人口が減少して行く状況、また東京都内私立大学の都心回帰により、都心部での学生

獲得競争が激化し、都心立地の優位性が薄れていく結果にあること、加えて昨年末から話題になり、平成31年度スタートの予定で、現在文部科学省で制度設計に移っている「実践的な職業人を養成する大学構想」、これは専門学校、各種学校、専門学校が一定の条件の下に大学に格上げになる構想であり、国家資格等が確実に取れるこの種大学の出現は、既存私立大学の競合相手となる公算が大きいこと、更に安倍政権の

抜本的な改革、すなわちこれまで推進している教育の質的改善を通じた大学の価値の引き上げ、例えば、学生に学部4年間で、真の実力を就けるため、カリキュラム改革やアクティブラーニング等教育方式の転換、両学部における英語、中国語等語学力の強化やキャリア教育の徹底、高大接続と入試制度の変更等の諸改革、時代の変化に応じた両学部の学科改組など学生募集力を維持し、さらに高めるためのこれら根幹

つとの基本的な考え方の下、長期ビジョンで打ち立てた、本学の建学の精神とその教育・研究の基本方針を、再確認することとしております。すなわち、学祖三島中洲先生が唱えた「東洋の精神による人格の陶冶」に基づき、その教育を、人々の長い歴史的な経験や英知が詰まった「古典」に重きを置き、「古典の中に未来がある」との考え方の下、その原点である「国語力」の習得を軸に据え、人間の考え方の根幹、



# 年頭所感 — 寒松一色千年別 —

学校法人 二松學舎  
理事長 水戸英則

地方創生事業に伴う地方大学の優遇措置（都心部の新学部増設禁止、定員充足率の引き下げ等）など、諸方面からひしひしとその強まりをみせております。こうした中、本学の志願者総数もここ2年度間、逐次減少傾向となっており、今年度入試は、これに歯止めをかけるべく、入試対策として、WEB、奨学金付き、併願割引等各施策を講じております。こうした、対症療法に加え、

の諸改革を、推し進めて行くことが必要です。これらの課題は、いずれも長期ビジョン「N:2020Plan」に盛り込まれており、これらを着実に実行、改善していく必要があります。

今後この建学の精神に基づく本学の教育と研究の方針が、社会から評価され、必要とされるよう、教職員ともども研鑽していく所存であり、引き続き皆さまのご協力とご支援を頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。

さて、来年10月には、本学は140周年を迎えます。その基本テーマを、「これまでの140年、これからの140年」とし、周年記念ページを開設しました。そのコンセプトは、今一度、原点に立

材が求められる現代において、これらのニーズに合致する方針であり、その役割は非常に大きいと考えられます。

世界構築に貢献する人を、生き抜き、より良い基盤社会が進展し、複雑化、混迷化するこの社会を、生き抜き、より良い

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、保護者の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年四月に学長のガバナンスを強化する目的で学校教育法の改正が行われましたが、私はまさに改正された法律の下での最初の学長として出発致しました。二人の副学長によるサポートや、執行部による全学的会議体での協議によって、本学では学長のガバナンスを担保するための補佐機関がしっかりと機能し始めていると思っております。学長のリーダーシップの下で大学を運営できる体制が整いつつある状況の中で、今年はスピード感を持って教育改革を進めて行かなくてはならないと考えています。

社会をめぐる環境

が大きく変化する中で、社会のニーズに応えるためにも、教育の質向上のためにも教育改革が必要になっていきます。教育改革の中でも今日最も重視されているのが、アクティヴ・ラーニング、すなわち学生の主体的な学びです。従来のような教員による知識伝達型の授業から、学生の能動的な学修への転換が求められています。本学では昨年2号館を改修し、学生の主体的な学びを支援するため



年頭所感  
— 共生社会を目指して —

二松學舎大学

学 長 菅 原 淳 子

のラーニング・コモンズを設置いたしました。おかげ様で、ラーニング・コモンズの利用者は着実に増えています。従来型の授業から能動的な学修への転換で問われているのは、実は教員の教育力でもあるのです。教員の教育力の向上を目指して、今年は全学的にFD活動にも取り組んで参ります。本学における今年一番の重要な課題は、文学部の新学科設置問題です。社会の変化に応えるために、国文学科と中国文学科からなる文学部

「障害者差別解消法」が今年の四月から施行されます。この法律は、障害を理由とする差別の解消を推進し、すべての国民が障害の有無によって分けへだてられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指したものです。大学においても、障害を持つ学生に対して「合理的配慮」を行うことが努力義務となり、本学でも支援体制をいっそう充実させていくことが必要になっていきます。

生支援課の強力な支援によって、人一倍頑張り屋だったAさんは無事に四年間を大学で学び、卒業し、就職も叶いました。

Aさんが私のゼミに所属していたこともあり、私は彼女が大学という学びの空間で遅く成長する様子を、身近に見ることができました。ゼミでは紅一点だったAさんを、日常の授業やゼミ合宿で男子学生全員が支えてくれました。Aさんのもとより、彼女の存在を通じてゼミ生

全員が成長していく様子に、私は大変感動を覚えました。

障害だけではなく、性的少数者の存在も理解するなど、日本が多様なありかたを認め合える共生社会に向かっていくことを期待したいと思います。

に新たな学科を開設する検討を、昨年からは開始致しました。今年は結論を出して、設置に向けて具体的な準備に入ることにあります。このほか、グローバル化への対応や地域社会への貢献が急務となっております。実践的な外国語教育の強化、地域のグローバル化への貢献、社会人の受け入れ、生涯学習機能の強化など、着実に実に対応して参ります。

本学でも障害を持つ学生が学んでいます。昨年三月に卒業したAさんは肢体不自由の障害を持っていました。本学がAさんのような学生を受け入れたのは初めてのことで、入学前から本人とご家族との面談を繰り返し、大学生活に対する本人の要望を聞くとともに、大学としてできることの範囲を提示し、Aさんの大学生活はスタートしました。教員や学生の理解と協力、そして教務課・学

と、世界各地で現在も紛争や内戦が続いています。また、紛争地域からの難民の急増は欧州社会を揺るがしており、世界各地で「不寛容」を許容する空気が広がっています。人種や民族、宗教や文化の違いを超えてお互いを理解し尊重することが必要です。多様性を受け入れて共生していくことは日本国内だけではなく、国際社会においても重要であることを、学生の皆さんが理解してくれることを望んでいます。



海外研修報告

ロンドンの漱石をもとめて

文学部教授 増田裕美子

平成二十七年八月十八日から二十八日まで、夏目漱石研究の一環として、イギリスのロンドンを訪れた。

ロンドンでは夏目漱石が明治三十三年から二年間、英語研究のため文部省から留学を命ぜられて滞在した場所である。後に刊行された『文学論』の「序」には「倫敦に住み暮らししたる二年は尤も不愉快の二年なり」という一文があるが、このロンドン留学後、『吾輩は猫である』を始めとする作品が生み出されるのであって、ロンドン留学が漱石の人生にとって一大転機となったことは間違いない。今回の研修において百年余りの時間差はあるが、漱石が二年間のロンドンの生活の中で何を感じ何を考えたかを探るために、下宿などの関係先を視察・調査した。

まず訪れたのはロンドン漱石記念館である。日本人による私設の記念館で、テムズ川南側の静かな住宅街にあり、向かい側には漱石の最後の（五番目の）下宿が見える。漱石はこの下宿に最も長く住んだが、広い緑地を通って地下鉄の駅と行き来でき、精神的にも落ち着いて過ごせた



ロンドン漱石記念館にて

だろうと思われた。下宿のそばの歩道には漱石の時代からある赤い郵便ポストが立っており、漱石が日本にいる妻を思っ手紙を投函したであろうことも想像できた。他にも様々な関係先を視察できたが、一番の収穫は歴史家カーライルの家であった。カーライルが生きていた当時のままに保存されており、カーライル夫妻の面影が偲べれると同時に、漱石が留学後に『カーライル博物館』を書いた意図もよく理解できた。このような機会を与えていただいた父母会に心から感謝申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。昨年、相談室は引越しました。別館一階のブックラウンジ奥から一号館十一階へ。場所は変わりましたが、これからも学生のサポートにさまざまな形で応えていきたいと思っております。引き続きよろしくお願ひします。

さて、昔も今も、よく受ける相談に、人とうまくしゃべれないという相談があります。会話が続かない、初対面の人としゃべれないなど、話すことにまつわる、広い意味では人とのコミュニケーションをめぐる相談です。特に、親しい友人となら会話がはずむのに、それほど親しくない、名前と顔を知っている程度の人とうまく会話ができない、という悩みをもつ人が多い印象です。

話を聞いてみると、そういう人ほど、会話は弾まなければダメと考えています。豊富な話題で話をつなぎ、相手を楽しませなくてはいけないと考えています。ところが、会話がうまく進むには、しぐさ、表情、声のトーンなど、言葉以外の要素が大事ですし、何より話をきちんと聞いて返すことが大

学生相談室 だより91 カウンセラー 原 信夫

切です。いかに話せるか、というよりも、話をいかに聞けるかが大事だということです。楽しませる会話はすぐに上達するのは難しい。聞き上手になるほうがうまく。これは何も私たちがカウンセリングをしているから思うわけではありません。実際、相手の話に本当に興味をもって、その先を聞きたいと心底思うならば、おのずと表情や態度がちがつてくるでしょう。うまくしゃべるためには、まず、相手の語ることに関心を向け、聞くことから始めるのがよいと思います。相手の話に添って、付いていて、話をふくらませるように聞く。自分の伝えたいことが浮かんでも、相手の話からそれほど離れずに。うまく伝え返しができることが、うまい会話なのだと思います。



# 2015 創縁祭

二松學舎大学  
**創縁祭 2015**

11月1日(日)  
10:00~18:00  
九段キャンパス  
1・2・3・4号館・中庭  
4号館にて  
入試個別相談会  
芸能人ライブも開催!

本年度も**11月1日(日)**に、  
二松學舎大学祭「**創縁祭**」が開催されました。

父母会役員会では、無料休憩所(喫茶室)という形で毎年参加しています。演武、伝統芸能、演劇、模擬店、など学生たちのチームワークとアイデアの賜物をご覧ください。



父母会役員

## 創縁祭NOV-10夜総行

学園祭実行委員会委員長

国文学科三年

茶原 英太郎

平成二十七年十一月一日(日)で創縁祭2015を開催し、無事終了することが出来ました。今年は十一月一日(日)の一日間のみの開催となりましたが、一日で最大の来場者である千三百人以上の方々にお越し頂きました。このような結果も本学父母会や松苓会、教職員の方々の始め、各クラブ団体やサークル、ゼミナールなど多くの方々にお力添えを頂けたおかげと考えております。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今年の創縁祭のテーマは創縁祭に関わった全ての方に彩のある縁を創って頂きたいという願いを込めて「彩縁」というテーマを役員一同で考案し、掲げました。このテーマの下、創縁祭2015に関わった全ての方に二松學舎大学の魅力を存分に感じ、彩のある「縁」を創って頂けたのではないかと考えております。来年以降もこの創縁祭が彩のある「縁」を創る場であり続けられるよう、実行委員会役員一同より一層努めて参ります。また来年よりも良い創縁祭を二松學舎大学全体が一丸となって創りあげていければと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。





©2010 熊本県くまモン 協力：銀座熊本館









新年明けましておめでとうございませす。今年も、学生の就職支援に尽力して参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。さて、大学生の就職活動のスケジュールは、昨年来、本誌上でもご紹介してきたとおり、平成二十八年三月卒業者は、大学四年次の八月から選考活動が解禁となっております。しかし、様々な問題が指摘されたため、大学四年次の六月から解禁と、再度変更がなされたのは、報道されているとおりです。ここでこの変更の結果、どのような事態が起これるか、平成二十九年卒業予定者の就職戦線について検討してみましよう。

まず、採用選考活動の開始は、六月以前に動き出す企業も相当数あると予測されています。具体的には、三月の広報活動開始と同時に、書類選考や筆記試験等を行ない、その後五月あたりが面接等の選考活動のピークとなり、六月には内々定を出す企業が少なからずでてくる、ということになります。また今年度の採用選考において、「内定辞退者が多数出た(早い段階で選考活動のうえ、内定を出していた)企業」は、いわゆる大手企業の選考活動が終了した後、概ね六月の下旬から七月上旬頃に選考活動をおこなう、一方「今年度の採用において予定の人数を確保できなかった(応募者が少なかつた)企業」にあつては、三月の広報解禁とともに採用選考活動を開始する等、多様な採用選考活動が行なわれると考えられます。このようなことから、就職活動にむけての準備は三月までには整えておく必要があるのです。そこでキャリアアセンターでは、二月から三月にかけて多くの支援行事や講座等を企画しております。ここで、それらの一部をご紹介します。

【キャリアゼミまとめ講座】

二月一日(月)、二月三日(水)  
昨年一年間、三年次生を対象に毎週水曜日の五時限に、就職に関する講座を講じて参りました。授業等の都合で、受講できなかった学生のために、一年間のまとめとして開講します。

【就活メイクアップ講座】

二月三日(水)、二月二十六日(金)  
女子学生を対象に、就職活動においてふさわしいメイクアップについて学ぶ講座です。

【就活女子力アップ講座】

二月三日(水)  
女子学生を対象に、就職活動や、社会に生きるという事等について学ぶ講座です。この講座は全学年の女子学生を対象としておりますので、一、二年次生も奮ってご参加ください。

【時事質問対策講座】

二月四日(木)  
面接等で、時事に関する質問をされることは多くあります。時事質問への対策を学ぶ講座を開講します。

【男子力アップ講座 二月四日(木)】

男性の育児休業等、今後の社会において求められる役割や、生き方等について学ぶ講座を開講します。

【ES書く前講座】

二月五日(金)十九日(金)、二十六日(金)  
エントリーシート等の書類選考を通過しなければ、面接には進めません。この講座でエントリーシートを作成するにあつたての留意点等について学んでいただきます。

【経営者と語る会 二月五日(金)】

東京中小企業家同友会の協力により、企業経営者と、お話しさせていただく機会を設けました。企業とはなにか、社会人とはなにかといったことを企業経営者から直に学べる機会ですので、多くの学生のご参加を期待しています。

【テストセンターSPI対策講座】

二月八日(月)～十日(水)  
多くの企業で採用しているテストセンターSPI試験の対策と模擬試験を実施します。

【業界研究会 二月八日(月)～十日(水)、二月十二日(金)】

各業界の人事担当者を招聘しての業界研究会を四日間にかけて開催します。

【論文文対策講座】

二月十二日(金)、二十六日(金)  
SPI等の筆記試験同様、多くの企業で採用選考に取り入れている論文文試験への対策講座を開講します。

【採用担当者による面接特訓 二月十五日(月)～十八日(木)】

実際に企業で人事・採用担当をしている方々を招聘し、面接の特訓を行ないます。

【GD講座】

二月十五日(月)～十八日(木)、二十五日(木)、三月七日(月)  
グループディスカッションへの対策講座を開講します。

【東洋学園大学との合同模擬面接会 二月十九日(金)】

就職活動では、当然のことながら他大学の学生と勝負していかなければなりません。他大学の学生と共に模擬面接を行ないます。

【就活マナー講座】

二月二十二日(月)、二十三日(火)  
面接時の立ち居振る舞いや言葉使い等、就職活動の場で必要なマナーを学んでいただきます。

【求人票活用講座】

二月二十二日(月)～二十四日(水)、三月九日(水)、二十二日(火)  
求人票の見方や、そこから読み取れるもの等について解説いたします。

【合同企業説明会ガイダンス 二月二十二日(月)～二十四日(水)、三月九日(水)】

ここでは、合同企業説明会に参加するにあつたての注意事項等についての説明にむかわえ、就職活動への出陣式と位置付けて開催します。

【創縁会(合同企業説明会) 三月一日(火)～十八日(金)】

いよいよ合同企業説明会の開始です。本学では三月一日(火)から十八日(金)にかけて、一日あたり十社程度の企業を日替わりで、学内合同企業説明会を開催します。※三月三日(木)、三月八日(火)は実施しません。

【創縁会GP(合同企業説明会) 三月十一日(金)】

大学近隣のホテルにて、八十社程の企業を招いての合同企業説明会を行ないます。先の創縁会同様、本学の学生のためだけの合同企業説明会です。参加企業は本学の学生に関心を持ってくださっている企業ばかりです。是非ともご参加ください。

このほか、「就職力アップ講座」、「履歴書作成講座」等、多数の講座を用意しておりますので、奮ってご参加ください。また、学生にお声掛けいただければ幸いです。



# 荒井ゼミナール

今自分たちが生きている時代・社会の中で、文学はどのような役割を果たしているか？文学の存在意義とは何か？私たち荒井ゼミナールでは、今まさに紡がれている現代文学について研究しています。「生活の中に文学を」をテーマに、日本で一番うまく小説を読むことができる大学生を指しています。そして、今を輝く作家および作品を読み、現代に生きる私たちが試

みえています。普段は二〇〇〇年代に発表された作品を中心に学びながら、夏休みには合宿と称して、大学で数日間研究をします。今年是小説家の星野智幸さんをお招きし、事前に製作した作品のリーフレットを使って発表を行いました。リーフレットは独自性を重視し、作中の居酒屋のメニュー風にしたグループや、雑誌の対談風に製作したグループなど、作家さんも喜ぶような個性豊かなものが並びました。作品内に登場するマスコットキャラクターをTシャツにプリント

ゼミナールならではの活動になっています。小説が人の手によって一行一行書かれていく重みを知ることの意味があると思います。普段から読んでいくからこそ、重要なポイントを読み飛ばしてしまう難しさもありますが、新しい観点を見つけた時、「こんな読み方があったんだ！」と新鮮な驚きを得られるのも魅力の一つです。何より作者本人に話を聞いたり、映像と比較したりといったことは、現代文学ならで



はの活動です。小説を通して、世界の見方がガラッと変わっていくゼミナールです。  
国文学科三年 横森 夏穂里

# 中山ゼミナール

中山政義ゼミナールでは、主に企業に関わる法律を中心に幅広く「法」というものを捉えることを目的に取り組んでいます。また、社会人になってから必要不可欠な要素となってくるコミュニケーション能力の向上という点で、ゼミに入った最初に、中山先生から「積極的にみんなと接し、発言する」ということが大切と第一声で言われました。そのおかげもあってか、ゼミの時間では、お互いが遠

慮せず活発な意見交換や発言が見受けられます。さらに中山ゼミでは、学生中心というのが基本路線であり、発表の進行・合宿の運営・各種行事の企画など全て学生の手に委ねられているのが特徴です。具体的な活動について、春セメスターでは、企業に関わる様々な仕組みや法律などを一人一人が担当し、調べまとめるといふ活動を行いました。主な内容としては、株式会社・不動産・取引・労働契約などが挙げられます。九月初旬に行った合宿では、二チームに分

かれ、一つのテーマに対し二人が対決する方式を取り、お互いが意識しながら合宿までに準備を進めることが出来ました。秋セメスターでは、先輩方の卒論をもう一度研究し、まとめるといふ活動を行い、卒論に向けての意識を高めています。各個人が自分の担当するところを徹底して調べることにより、自分自身でも新たな興味がわき、卒論のテーマに直結するヒントを得る機会を持てていると思います。ゼミの時間は、先生の人柄からか笑いに溢れ、いつももうるさいくらい賑やかで

す。しかし、その中でもオンラインオフをしつかりとつけられるところが中山ゼミの良い所だと思えます。  
国際政治  
経済学科三年  
渡邊 伸高



# 平成二十七年 度 国際交流年 末懇親会



十二月五日(土)に、平成二十七年国際交流年  
末懇親会を実施しました。  
九段校舎一号館地下一階学生食堂に、留  
学生、教職員、父母会役員の皆様、日  
本人学生サポーターなど合計六十一名が  
集いました。

菅原淳子学長から開会の挨拶をいた  
だいた後、田中福男父母会長から  
挨拶と乾杯のご発声をしていただき  
ました。参加した留学生達は、授  
業でお世話になっている先生方以外  
にも、普段接することのない父母会  
役員の方々と積極的に交流し、日  
本での経験話などで大いに盛り上  
がっていました。また会場には、父  
母会の助成によって成り立ってい  
る夏の短期海外語学研修および留  
学生交流会の写真ポスター掲  
示することで、学生達が伸び  
伸びと活動を行っている様子を  
確認することができました。

懇親会の途中で、同日の昼に開  
催された外国人留学生日本語スピー  
チコンテストの授与式を行いました。  
一位の学長賞を受賞した台湾・中  
国文化大学からの交換留学生 許  
瑞玲(きよすいれい)さんをはじめ、  
入賞者は記念撮影を行いました。入  
賞した留学生からは、今回の結果に  
満足することなく、より一層日本語  
の能力を向上させたいとの決意表  
明もあり、喜びの笑顔が懇親会に  
さらなる花を添えてくれました。

授賞式に引き続き、今年度で海外  
協定校から本学に交換留学生とし  
て来日している学生から一言もら  
い、それぞれの思い出話を披露し  
てくれました。

最後に、塩田今日子国際交流セン  
ター長より、閉会の挨拶をいただき  
終了となる予定でしたが、閉会後  
も参加者全員が名残を惜しみつつ、  
引き続き会話に花を咲かせていま  
した。留学生達にとっては、履修し  
ていない授業の先生方や父母会役  
員の方々と直接交流する場は本懇  
親会以外にはあまりないため、有  
意義な会となっておりま

## 交流会の報告

父母会の助成により毎年度実施  
している交流会は、春セメスター  
と秋セメスターにそれぞれ1回ずつ  
実施しました。

春セメスターでは、五月二十三日  
(土)に水道橋の東京ドームシテイ  
にてボーリングを通じた交流会を  
実施しました。日本人にとっては馴  
染みのあるボーリングも、多くの  
留学生にとっては初の体験であり、  
競技方法やボーリング玉の持ち方  
から指導し、最初はぎこちない動  
作でしたが、ゲームが進むにつれて、

どの留学生も大いに盛り上がり  
ながら楽しむことができました。  
ゲームを通じて仲良くなった留  
学生同士は、その後懇親会を行  
い、お互いの紹介等を行うこと  
で、新学期のスタートを順調に  
きることができました。

秋セメスターでは、十月二十五日  
(日)に秩父方面へ日帰りのバス  
ツアーを実施しました。埼玉伝  
統工芸館にて「紙すき体験」で和  
紙を作成し、フルーツ農園での  
ぶどう狩りや、橋立鍾乳洞を見学  
する等して、中身の濃い一日を  
過ごしました。日常の大学生  
活から離れた体験学習は、個

人の日本文化への理解を深める  
ことはもとより、留学生同士の  
横の繋がりもさらに深まり、  
実のある交流会となりました。





# 派遣留学生の声

平成二十六年年度派遣留学生として、台湾の中国文化大学に派遣された湯本智瑛さんに留學生生活の思い出、また平成二十七年年度交換留學生の許瑞玲さんから日本の大学生活について綴っていただきました。

## 「感謝」そしてこれからも



文学部 中国文学科 4年  
湯本 智瑛

私の台湾留學を一言で表すとすれば、「感謝」以外にはありません。正直なところ、台湾への留學に私は何の不安もありません。むしろ、た。それは、台湾の友人の存在があったからだと思います。

実際に台湾に行つてからも、彼らが熱心に様々なことを教えてくれ、生活においては大きな困難もなく、楽しく生活できました。また、台湾に行つてからもたくさんさんの友人ができました。前期では日本語学科の友人の他にも、参加していた野球部の活動を通してたくさんさんの友人ができました。野球部の友人は、日本語が全くできないので、彼らと過ごす時間はとても刺激的で、どうやって彼らに自分の思っていることを伝えるかということを中心に考えながら過ごしていました。後期になると、新しい留學生や日本語学科の新しい友人がたくさんできました。彼らは私のチューターをやってくれていたもので、授業の後に一

緒にご飯を食べながら宿題を見てもらったり、中国語についてわからないことを質問したり、日本や台湾について話したり、休みの日に遊びに行つたりたくさんさんのことをしました。彼らの思い出は挙げだせばきりがありません。彼らの存在は、とても大きな財産となっています。

大学の生活の他にもたくさんさんの出会いがありました。言語交換をして勉強しあったり、日本人学校で小中学生に野球を教えたり、たくさんさんの思い出があります。

留學で出会ったたくさんさんの人たちの関係は、留學中で終わることなく、今も続いています。十二月に台湾に遊びに行った時にも、たくさんさんの友人が時間を合わせてくれ、「おかえり」と言ってくれました。それは、留學を終えて改めて彼らの大切さ、彼らと過ごした時間の大切さに気づかせてくれました。

留學は自分を大きく成長させてくれました。そんな台湾、友人、その他関わってくれたすべての人、そして何より留學へ行かせてくれた両親への感謝を胸に、次のステップへと進み、恩返しをしていくつもりです。

## 来てよかった



中国文化大学 (台湾)  
許 瑞玲

「もう台湾に戻りたくないー!」これが今の気持ちです。去年の今の時期は、交換留學のために、一生懸命勉強して、それは今まで一番真面目な時期だったかもしれません。

時は早くすぎ、日本に来てもう四ヶ月が経ちました。夢が叶い、毎日を楽しんで過ごしています。日本人のように電車に乗って、学校に通っています。平日は授業が終わった後、友達と食事をしたり、ショッピングをしたり、宿題をしたりしています。休日はジョギングをしたり、山登りをしたり、遠いところへ行ったりします。食べ物好きな私は、よくスーパーを利用して、ポイントカードも持っています。台湾では輸入品のため、日本の魚や果物は高いですが、日本ではとても安い価格で買えます。カートいっぱい買うことは幸せです! また、日本で様々なカフェにいつ

たりもしています。雰囲気がとても好きで、店員さんも親切です。大好きなデイズニールランドも電車で一時間くらいの距離なので、とても幸せです!そして、そろそろ雪が降る季節になるので、台湾ではできないスキーをしたいです。

今の生活ではほとんど日本語だから、毎日新しいものを知り、言葉を勉強できます。以前日本語を喋るのには、自信がなかったから、全然喋べらなかつたです。でも、日本にいるから、日本語しか喋れません。喋ることで日本語の自信がついて、本当にうれしいです。日本へ来る前は、友達ができるか、心配でしたが、今では、友達と言える人がたくさんいます。

しかし、同じ日本語を勉強している人や中国語を勉強している人を見ると、私の努力はまだ足りない気がします。もっと日本語を勉強しなければならぬと感じます。毎日成長できて、日本に来て本当によかったです。

勉強は難しいけれど、この一年間を人生の中で最も充実した時期にして、楽しい思い出を作るために、今後も頑張ります!

## 大学の講義を受講してみませんか

二松學舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様にご利用しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一々数科目)を学生と一緒に受講し単位も取得できる制度です。

本学学生のご父母の皆様には、生涯教育の一環として一人でも多く大学の授業を受けて頂きたいとの趣旨から、登録料の免除、科目等履修料の減額措置を講じております。この機会に、是非お子さんと一緒に大学の授業を受けられるこ

## 卒業パーティーの開催について

父母会では、卒業生の皆様のご卒業を祝し、また、在学中お世話になった教職員の皆様への感謝の気持ちを込めて、卒業パーティーを開催しています。卒業生の皆さんは是非ご出席願います。

### 【日時】

平成二十八年三月十六日(水)  
午後二時から四時

### 【会場】

帝国ホテル

本館三階「富士の間」

○歓談の時間を利用して、ゼミ毎の集合写真撮影を設けています。時間に制約がありますので、あらかじめ撮影順番を決めております。ご協力ください。

○卒業生の皆さんには「リボン」を必ず着用していただきます。

「リボン」は卒業式当日配布します。

とをお勧め致します。内容は、次の通りです。

### ■公開科目

学部・大学院で開講している授業科目のうち、原則として演習科目を除く授業科目を公開いたします。

### ■募集要項

平成二十八年度の募集要項についてのお問い合わせは、二月になりましたからお願いします。

### ■授業料

一科目 通年科目 三万円  
半期科目 一万五千円

### ■問い合わせ先

二松學舎大学教務課  
〇三(三二六一)七四〇六

## 卒業アルバム掲載 個人写真提出のお願い

卒業アルバムは父母会より卒業生に贈呈します。卒業アルバム用の個人写真を大学で撮影できなかった方は、左記の要領で学生支援課(九段キャンパス一号館三階)へ、ご提出いただきますようお願いいたします。

再度、ご家庭で学生本人にご確認下さい。

### ●写真サイズ 縦4cm×横3cm

(証明写真でも構いません)

### ●提出締切日

平成二十八年二月二十九日(金)

必着

なお、ご提出戴けない場合は、学生氏名のみ掲載となりますことをご了承下さい。

※郵送の場合は、必ず学生番号と学生氏名を写真裏面にご記入下さい。

※詳しくは学生支援課(九段校舎)までお問合せ下さい。

〇三(三二六一)七四二七



## 編集後記

会員の皆様、明けましておめでとうございます。それぞれに良い新年を迎えられたことと思います。

さて、昨年の十一月には、「創縁祭」が盛大に行われました。父母会も例年と同様に無料休憩所「喫茶室」を開設し、一日のみの開催にもかかわらず、延べ二五〇名ほどの来場があり、大盛況でした。会報にも「創縁祭参加」記事を載せましたので、ご一読いただき、今秋もぜひ足をお運びください。会員一同、お茶・お菓子を用意してお待ちしております。

また、平成二十六年からスタートし、今年度二回目となりました父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金制度について、三十一名(平成二十八年一月現在)の学生が該当し、総額約二四〇万円が学生に支給されました。父母会には、このような制度もありますので、ご承知置きください。また、大学からも周知はしておりますが、お子様に情報提供をお願いします。

さらに、今年度も卒業パーティーを卒業式終了後、上記のとおり開催いたします。卒業生の皆さんには、学生生活の締め括りとして、一生の思い出に残る出来事としていただければと思います。